



今年の夏は例年にもまして暑い日が続いています。そのような中、学校を訪問した際に、癒やされる素敵な玄関に出会いました。ひまわりの水中花とメダカが同居している水槽が置かれていたのです。とっても爽やかな風が吹き抜けました。

この日の授業風景です。

「みんなが好きな夏の季語で俳句を作ってみましょう。何にしますか。」と働き

かけると「わーい!」「かき氷!」「アイスクリーム!」「ラムネ!」「せみ!」等嬉々として発言してくれます。その中に「プリン!」の声。こどもたちは食べ物が大好きなので、発言に納得しつつも『あれ? プリンは季語ではない。それを伝えないと…』と思っていたところ、「プリン」ではなく「ふうりん」の聞き間違いであると判明し、大笑いから始まった俳句の授業。さらに、講師とこどもたちは以心伝心。講師は、「江戸風鈴」と「南部風鈴」を用意していました。



大事に大事に鞆からケースを取り出し、おもむろに蓋を開け、中から風鈴を取り出すと、こどもたちの視線は講師の手元に集中しました。静寂が広がります。そうっと掲げると短冊が揺れ、音がします。「ぼくは南部風鈴の音が好き」「江戸風鈴の音も柄もかわいい」と、感想が交錯しました。

目で見て、耳で聴いて、手で触ってみました。教室で見た実物の風鈴から、自分の記憶にある風鈴を思い出した子もいました。心の目や心の耳で詠んだ子もいます。紹介します。

- 『教室で二つの風鈴聞き比べ』
- 『風が吹くきれいな音は風鈴か』
- 『風が吹き風鈴の中思い鳴る』
- 『風鈴は光のすじが通ってる』
- 『草原の広さ感じる南部風鈴』
- 『風鈴の心が休まる魔法の音(ね)』
- 『風が吹く風鈴鳴ると目が覚める』
- 『風鈴が静かにひびく青い空』



こどもたちが好きな食べ物等でも俳句を作りました。

- 『木の中でうるさいやつだあぶらぜみ』
- 『かき氷シロップまぜて別の味』
- 『せっけんですっぱり取れたラムネ玉』
- 『かき氷シロップ選び十分間』
- 『暑い日はグレープフルーツシャーベット』
- こどもたちは夏を楽しんでいますね。